VOLUME.

6

【漫画】小宮利公

【原作】笑うヤカン

キャラクター原案◎新堂アラタ

魔王の始め方

THE COMIC

ヴァルキリーコミックス

【漫画】
小宮利公

今回はお色気多め、
そしてついに大ボス登場です。
あとこの巻の後半から
液タブを導入してみました。

【原作】
笑うヤカン

とうとう6巻になりました!
ダンジョン対ダンジョンに始まり英霊も登場して、
物語もいよいよ佳境。
今回の見どころは見たことのない顔で笑うスピナ、
服を溶かすスライム、
そして勢揃いする七英霊です。

ヴァルキリーコミックス

魔王の始め方

THE COMIC

6

【漫画】小宮利公　【原作】笑うヤカン

キャラクター原案◎新堂アラタ

CONTENTS

valkyrie comic series - how to book on the devil the comic
comicwork by komiya toshimasa - story work by warau yakan
presented by kill time communication

6

Step.39 ——— 5
Step.40 ——— 25
Step.41 ——— 45
Step.42 ——— 65
Step.43 ——— 85
Step.44 ——— 107
Step.45 ——— 131
Step.46 ——— 149
Step.47 ——— 171

Step.39

ココ

…流石です
お師匠様

ココ

まさか
これほど早く
ここまで到達
なさるとは

…

お前には
まだ
これを教えて
いなかったな

コ！！

コ！

ゴ！！！

!

ガ ガ..

ピシ

ドン

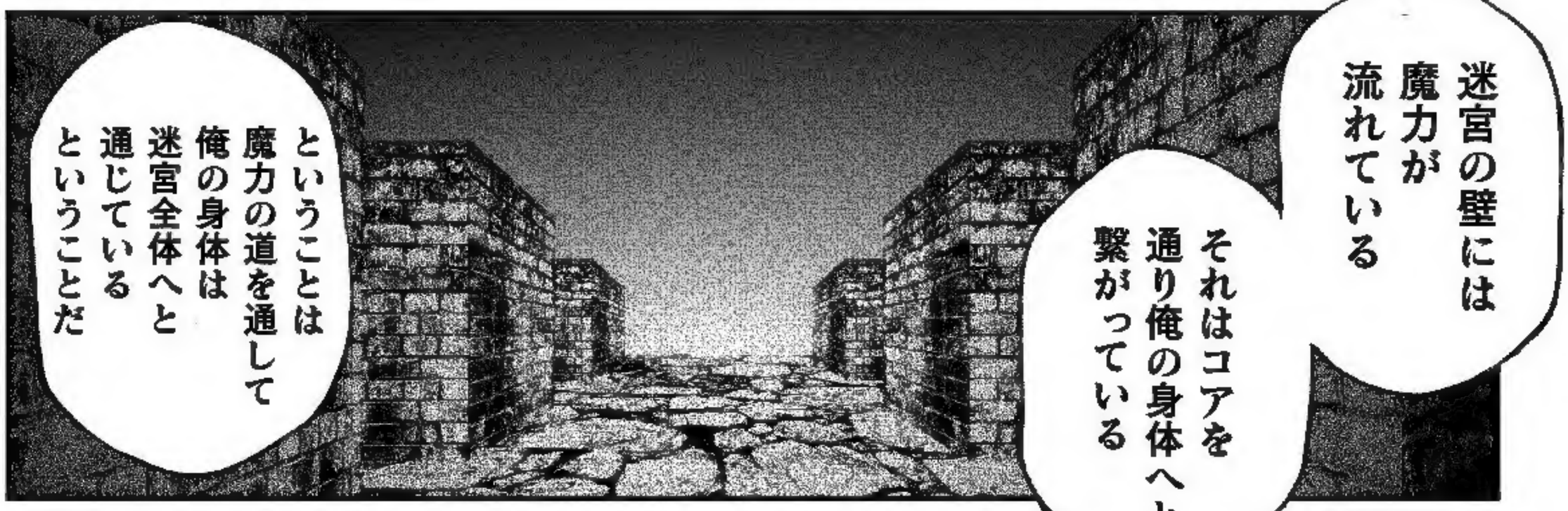
ドン

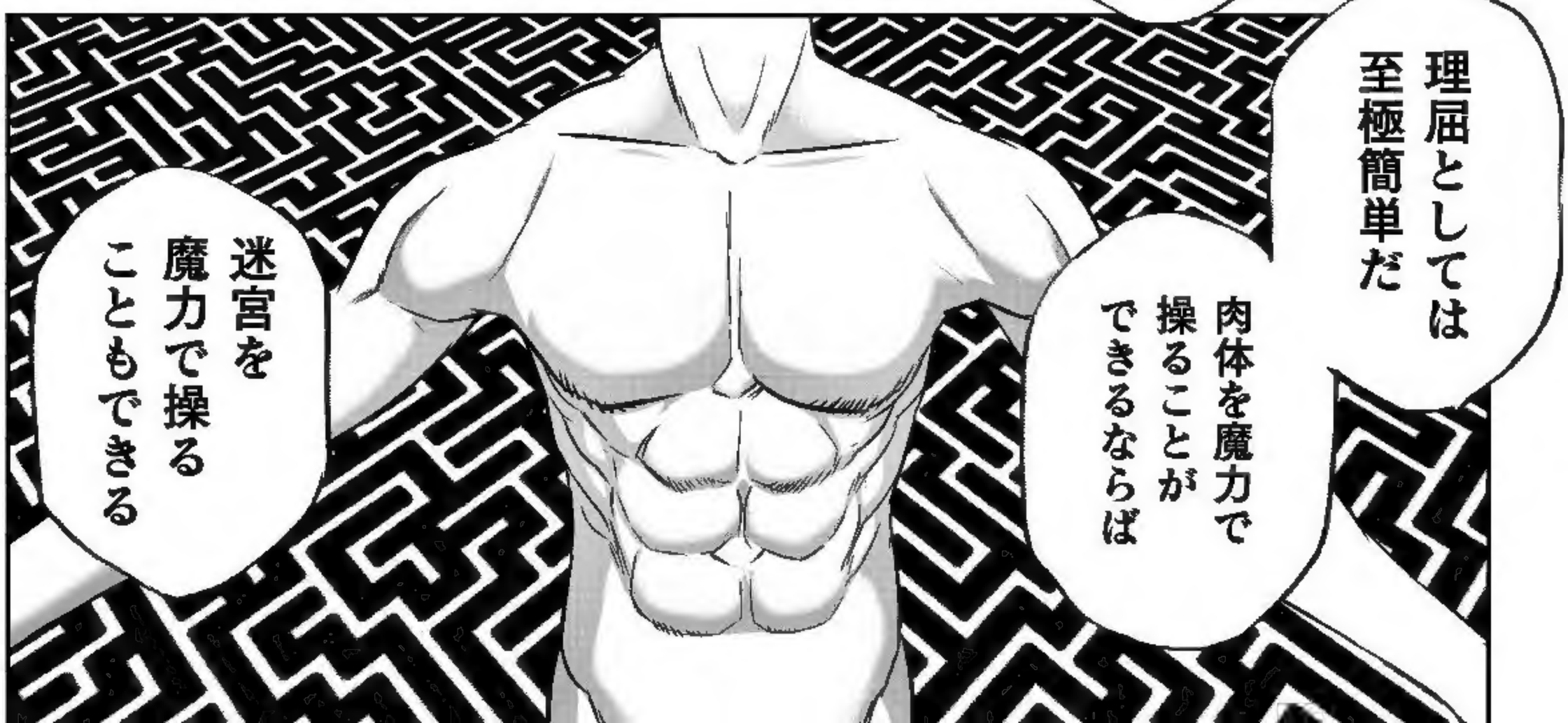
ドン

……

：

迷宮魔術
とでも
呼ぼうか
俺の
オリジナルだ


迷宮の壁には
魔力が
流れている
それはコアを
通り俺の身体へと
繋がっている
ということは
魔力の道を通して
俺の身体は
迷宮全体へと
通じている
ということだ


理屈としては
至極簡単だ
肉体を魔力で
操ることが
できるならば
迷宮を
魔力で操る
こともできる

お前の迷宮を
手懐(てなず)けるのは
少々骨が
折れたがな

…
御見(おみ)それ
しました
お師匠様

スピナは
心の底から
感嘆の声を
上げた

言うのは簡単だが
実際行うとなれば
並大抵の
ことではない

迷宮自体を
自分の手足の
ごとく認識し

精緻(せいち)の極み
ともいえる
魔力の操作を
しなければならない

それは
何十フィートもある
筆で麦粒に文字を
描くようなものである

おそらく
世界中探しても
オウル以外
同じことができる
人間は皆無であろう

それより

これは
どういう
つもりだ

お師匠様を
お迎えする
準備を
整えたのです

…私と共に

この迷宮で
過ごしましょう

要らぬ世話だ

さっさとそのスライムを片付けろ…帰るぞ

そういうわけには参りません

力ずくでも…というわけか？

ただ私は
お師匠様の
身を案じている
だけです

いいえ

…本気で
言っておる
ようだな

だがお前の
言うことを
聞いてやる
訳にはいかん

『スライムを
下げろ スピナ』

ヒュ～

さっ さと…

…

な…

貴様…！

愚かな
ことを…

貴様…

自分が
何をしたのか
わかって
いるのか!?

ええ

理解して
おります

それでも

私がお師匠様に
並ぶには…
あなた様の横に
立つには
これしかなかった

ならば

私は己の行為を
愚かとは
思いません

こやつ…スライムと
一体化することで…!!

…人間でなくなることで
我が呪いを無力化した
というのか!?

人であることを捨てたのはお師匠様も同じでしょう…？

さあ…迷宮の奥で永遠に私と愛し合いましょう…

『ネリス・ビア・スピナ』

『俺を解放しろ』

!?

十〇月

十〇月

ゾワァ

そんな…

ひとつ

お前に教えて
いなかったことが
あったな

魔術師は
その名をつけた
師に逆らうことは
絶対にできない

魔力を無効化するだの
人でないものになるだの
そんなことは
まったく関係ない

名とは存在
そのもの

魂にも等しい
ものだからだ

泣くな
貴様の心配は
わかるし
無下にする
気もない

さあ
『さっさと
帰る』ぞ

……

……泣く？

!?

ハッ

ハッ

ハッ

…ッ

かぬ…！

…これは
悲しみの涙では
ありません…

喜びの
涙です

私は…
ようやく…

お師匠様と

同じになれたのですから

Step39 End

Step.40

く…！

こ…
これは…

おれの…か

類感…呪術…か…！

呪術

それはまだ
魔を使った不可思議な技が
全て『魔法』と呼ばれて
いた時代の遺物だ

呪術・妖術・魔道・法力
などと様々な名で
呼ばれていたそれらは
多くの魔術師により
研鑽され分類され

一つの学問として
纏められ
『魔術』の名を
つけられた

そして
それ以前の魔法は
使い勝手の悪い
泥臭い術だと断じられ

忘れ
去られてきた

しかし
そんな中でも

民間の中で
根強く残っている
ものがある

それが
『呪術』だ

魔術に比べ
格段に効率が悪く
使用方法も限定的で
使い勝手の悪い
呪術ではあったが

魔術師ではなく
民間の中に
残ったのには
理由がある

それは
「感覚的にわかりやすい」
ということである

呪術とは一言で言うと
「関連性を利用した
魔術」の総称だ
似たものは似る
同じだったものは
繋がりを持つ

雨が欲しければ
それを模して
水をまいて
雨を呼び寄せ

人を殺したければ
その相手の爪や髪を
人形に入れ
杭を打ち込む

無論
魔術師でもない人々が
そのようなことをしても
望む効果が得られる
ことはほとんどない

しかし人々は
それに力が
あると信じ

その信じる意識の
集合体が力となって
呪術師に力を貸す

その中でも
『類感呪術』と
呼ばれるものは

「似たものは
似た性質を持つ」
という関係を
利用したものだ

そして今
「師による理不尽な強制」
というオウルの
根幹に根ざす体験を
追体験しスピナは
彼との関係性を強くした

師と弟子

弟子と師

二人の関係性が
曖昧になり
それを利用して
スピナは強引にオウルへ
呪術を仕掛けたのだ

効率は悪く
効果の薄い
呪術ではあるが
スピナの蓄えた
魔力は膨大だ

しかもダンジョンコアと
いう外部に魔力を持つ
オウルとは違い
スピナは自身の体内に
魔力を全て蓄えている

その膨大な量の
魔力による力押しで
オウルは完全に
動きを封じられた

あお
お師匠様…
あぁ…

おおお…

!?

ズル

おしおきしましょうさまぁ…

ズル

お師匠さまぁ…

ズル

お師匠様ぁ…

ズル

お慕いしております…

おお…

ああ…

お師匠様ぁ…

お師匠様…

…!!

服が…!!
溶ける…!!

御奉仕
致しますね
お師匠様…

…!!

ペロ…

ペロ…

ペロ…

んっ…

ペロ…

声が出せん…！
これでは形代(かたしろ)を
捨てて元の身体に
戻れん…！

…！

ああ…
お師匠様…

チロ…

チュ…

ピチュ

お師匠様…

ペチャ

お師匠様…

お師匠様ぁ…

形代にこのまま閉じ込めて過ごす馬鹿な…！

んんっ
お師匠様…

永遠に
愛し合いましょう…
お師匠様ぁ…

あああ！

あんっ！

ああ！

ズチュッ

ズチュッ

ズチュッ

んッ

あ

く…魔力を乱されて…射精のコントロールが…

あ

あ♥

イキ…ます…♥

ヒッ
ヒッ
ヒッ

もっと…もっと…
くださいませ…

あぁ熱い…
お師匠様…

あはあ

ぱちゅん

あはあ

きれいに致します
お師匠様…

ああ
おいしい…
お師匠様の味…

ペロペロ

レロチャ

お師匠様…
私のことだけを
愛して

などとは
申しません…

ですがどうか
ずっとお傍(そば)に

お傍にいさせて
ください…

あん♥

あっ♥っ♥

んんっ♥

ガチョッ

ガチョッ

ゆさ

ゆさ

…!!

ま…
まずい…

この…
ままでは…！

身も心も
取り込まれる
くそ…！

やめなさい
スピナ!!

ご主人様を
放しなさい!!

Step.40 End

オウル……!!

Step.41

……

邪魔をしないでください

使い魔風情が

お師匠様はこれからずっと私と共にあります

あなたは必要ありません

消えてください

使い魔風情…

ですってぇ…

ナニコレ

そうはいくもんですか！

リル!!

……

オウルは…

わたしの！

ぐぐ

ぐぐ

!?

ご主人様なんだからっ！

ぐぐぐぐ

キャアアア！

ミッ

ミッアアア

く…！

ミッアアア

悪魔のあなたでは
どうにもなりません

私のこの身体は
あらゆる
魔力を溶かし
吸収します

…もう一度言います

消えてください

スピナとてリルやユニスに友情を感じていない訳ではない

いや むしろ

オウル以外に信じる数少ない相手であり

ある種の尊敬に近い感情すら抱いていた

だが彼女を何よりも恐れさせたのが

ユニスの死であった

戦闘能力を
全く持たない
スピナは

口には
出さなかったが
ユニスの強さに

強い憧れと
絶対的な信頼を
置いていた

…

そんな
彼女さえ

あっさりと
死ぬ

ならば お師匠様も
例外ではない…
いつか命を奪われて
しまうのでは…？

その想像は
スピナにとって
気が狂わんばかりの
恐怖であった

ボウ…

絶対に 嫌

わたし
だって…

譲れないの

ボオオオ

ごめんね
オウル

ボウ…

一割までって
約束だったけど…

ボウ…

あなたから
もらった
魔力の全部…

使わせて
もらう!!

…む

無駄だと
言うのが

わからないの
ですかっ！

ズズズ

ズズズ

ズズズ

だったら
何よ

無理なら
あなたは
オウルを諦める
ってワケ!?

何故
そこまで…

知らないし

知った
こっちゃない！

わたしはね…！

怒ってんのよーっ!!

そんな
無茶な…

脈を溶かされながら
瞬時に再生させ
ている…!?

馬鹿な!

サキュバスに
そんな技術が
あるはずが…!

もう
すこし…!

あああああ！

リル!!

……！

手を離してください！

やっと…！

…名前で呼んでくれたね…！

ええええ！

……
やった…わ！

リル!!

!?

ドン

…やっぱり
ちゃんと
残してたんだ

カリッ

お腹にもらった
オウルの魔力

Step.41 End

Step.42

……！

さ
気は
でし
ょ？

帰ろ？

……

…できません

…？

だって…

こ
こんなこと
じで…

師匠…おじじょうざまに…

ぎらわえる…

ぎゃあああああ!!

!?

泣きやみなさい

あんたキャラ崩壊してるから

オロ

オロ

ほら

わたしがなんとかしてあげるから

ね？

なぜ

なぜ

この小さな国
プラエティは今
隣国フィグリアと
戦争の真っ只中だ

しかも
負けの見えている戦(いくさ)
どうにか新兵器で
持ちこたえてはいるが
日に日に目減りしていく
物資はどうしようもない

民草は貧困に飢え
人心は荒れ

治安は
悪くなり

道には孤児が
あふれた

私
ラディクス
フルーメンが
"彼"を見つけたのは

ちょうど新しく
開発する兵器の
発想に行き詰っていた
時のことだった

気分転換にと
出かけた街の市場

汚れに塗(まみ)れた
生気のない顔

こんにちは

ボロボロの
布の切れ端の
ような衣服
ガリガリに
やせ細った身体

どこにでもいる
ありふれた
孤児の姿だった

君うちの子になる？

それは偶然と言えば偶然だったし

必然と言えば必然だった

あるいはそれを人は「運命」と呼ぶのかもしれない

まずは服を脱いでそこの籠に入れて

スル

魔力の量
そのものは
大したことはない
年相応のごくごく
微量なものだ

気になったのは
魔力の色だ

しかしその色は
あまりにも
私の魔力と
似ていた

魔力の色は
よく髪に出る
概ね髪の色と
魔力の色は似通う
ことが多い

私と同じ琥珀色
金や赤は珍しくもないが
その中間の褐色を帯びた
色というのは
少しばかり珍しい

魔力の色は
同じように見えても
千差万別なのだ
声と同じで
まったく同じと
いうことはまずない

そんな中で彼の色は
周囲から「天才」と
呼ばれた私さえ
己のものと見紛うほど
そっくりだった

湯殿の
使い方は
わかる？

だからといって
別にそれが何かの
役に立つとか
そういうわけ
ではないけれど…

フルフル

じゃあ使い方を
教えるから一度で
覚えなさい

まず最初に湯を
手桶ですくって
身体にかけ清める

ざば

トロー

次に
身体に油を
塗って

肌かき器で
汚れを落とす

!?

じ…自分で
やってみなさい

すごい
垢ね…

ボロ
ボロ
ボロ

…

ちら

……

ちら

じゃ私も…

ふふ…
気付かないとでも
思ったのかしら
かわいいわね

しゅっ

しゅっ

かぽ――ん

そういえば
まだ名乗ってもいなかったね
私はラディクス
〝ラズ〟と呼んでくれればいい

君は？

テオドア

良い名前ね

テオ
あなた
何歳？

わからない
13か4…
だと思う

!?

思ってた歳より
倍は上だわ…
よほど栄養状態が
悪いのね

私と6つ
くらいしか
違わない
じゃない

？

テオ

その名前は
捨てなさい

今日から
あなたは
私の弟子
…そうね

今日から
〝アイン〟と
名乗りなさい

アイン・ソフ・オウル
それがあなたの名前

見習い魔術師として
私の言うことを
よく聞いて働くのよ

そうすれば
毎日美味しい
ご飯を食べさせて
あげるし 魔術も
教えてあげる
わかった？

わかった

「わかりました」よ

言葉から教えて
あげないと
いけないようね

さっきのも…
ですか

うん？

さっきの…
熱い水も
毎日…？

そりゃあもちろん
私は不衛生
なのは嫌いなの

……

もしかして
一緒に
入りたいの
かしら…。

果たして
その予感は半分
当たっていた

アインが自分から
積極的にそれを
要求することは
なかったものの

彼はそれとなく
私と一緒に
入浴したがった

今まで魔女と呼ばれ
恐れられてきた
私を女として
見る者はいなかった

私が開発し
魔力を込めた武器が
この国を支えて
いるのは疑いようの
ない事実だったが

それ以上に
無慈悲で
強力な兵器と
それを作り出す
魔女に

誰もが
潜在的な恐怖を
抱いていたの
だから——

そんな中
純真に私を慕い
時折垣間見せる
アインの未成熟な
情欲は

私にとって
どこか心地良い
ものだった

己がただの
兵器ではなく
女であると
いう実感

それは私の
心を満たした

アインは学もなく
身体も貧相な
少年だったが
頭は良かった

彼はすぐに
家事全般を覚え
私の身の回りの
世話全てを
こなすように
なっていった

料理・掃除・洗濯
その他諸々の家事を
全部アインに任せ
私は研究に没頭した

……

これは
良い拾い物
したかも

私は喜び
有望な弟子を
かわいがり
知りうる知識の
全てを彼に与えた

フフフ

するとアインはまるで古布が水を吸うかのようにあらゆる知識を吸収し

半年も経つと私の助手として働けるほどになった

覚えの良い教え子はかわいいものだ

私は成長する彼をずっと傍で見守っていくつもりだった

あの日が来るまでは…

Step.42 End

二年後

出来たー！（ようやく…）

お疲れ様です師匠!!

設計から数ヶ月…これで効率が三割も上がる！

アインお風呂は？

既に用意できてます

さっすが！

Step.43

あ～

チャプ..

きもち～…

チャプ..

ふータルい
そうだアイン
あなたが洗ってよ

どき

お俺が…
ですか？

うん 痛く
しないでね

よいしょ…

失礼します…

うふふっ

いいわ～

随分逞しくなったわね…

あっ

……

ぎゅっ

ぎゅっ

ビク

そのくらいで
もういいわ

もっ

申し訳
ありません！

私の裸を見て
こんなに
したの？

いけない
子ね

師に欲情
するなんて…

…

私を

抱きたいの？

さぁ…
アイン

…いらっしゃい

師匠！

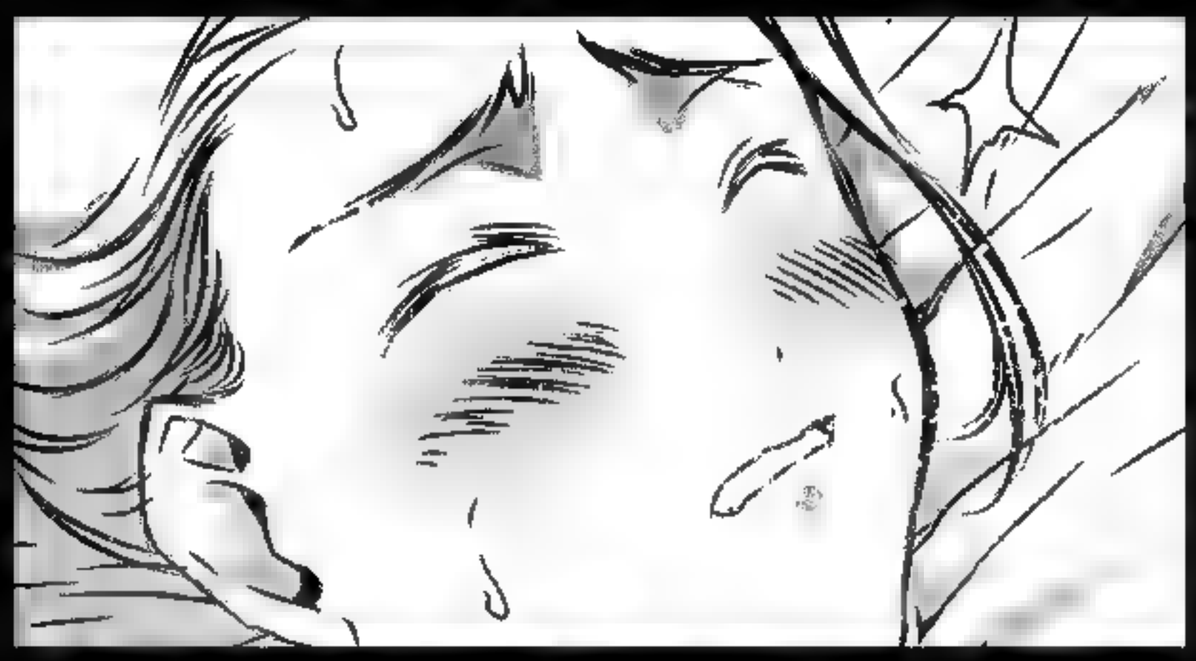
慌てないで

いいわ…

きて…

ズチュ…

こんなに…



ビクン

ビク

あ…

…っう
アイン…！
女の身体は

はっ

もっと…
優しく
扱うものよ

すみません

もっと
ゆっくり…
ね…？

ん…
いいわ

もう少し
早くして
も…

はっ
師匠…

俺…！

もう…

アイン…！
いいわ
出しなさい
…っ！

受け止めて
あげる…！

ドクドク

ドビュル ドビュル

ドクドク

は

は

師匠っ…

名前で呼んで…って言ってる…でしょう？

あッ

——それから私たちの生活は一変した

はいい

ラズ…！

アイン…

私たちは夜毎に肌を重ね

寝室で…浴室で…研究室で…

ハッ

あ

私たちの暮らす塔の中のありとあらゆる場所で愛を交わした

ラズ 仕事は
しなくって
いいのか？

はー

はー

はー

んん…

…そうね
そろそろ
取り掛からないと

はー

はー

今度の石火矢(いしびや)が
完成すれば
効率が五割は
上昇するから

しばらくは
持つはず

効率というのは
なんの効率なんだ？

そりゃあ…

…

…

師匠(ラズ)？

…なんでもない
ちょっと説明
しづらいから

ああ

その話は
また後で

わかった

『効率』というのは
『人を殺す効率』のことだ
人・魔力・費用に対して
どれだけ相手を
殺傷できるか――
私が追求していたのは
それだった

私そ金安
、安全に簡単に
金をかけず人を殺す…
そういった物を
私は自指し作っていた

結局
その言葉について
彼に説明する
ことはなかった

研究一筋に生き
ほとんど他人と
触れ合わなかった私は
意味は理解していても
それを実感しては
いなかった

しかし他人と暮らし
男を知って気付いた…
その数字の向こうで
消えていった
人間たちの命に

兵器の一部は
敵に奪われ
使用された
こともある

私の作り出した物が
敵味方ともに被害を
大きくしているのは
確実なことだった

もしかしたら
その中にアインの
両親も含まれて
いるのかもしれない…
そういったことに
私は気付いてしまった

その日を境に
私は何かと
理由をつけ
兵器の開発を
断るようになった

……

……

元々 仕事が遅れがちで
あったことも含め
依頼主である
プラエティア王国の
首脳部は激しく
抗議してきた

しかし
私はそれでも
仕事を請け負おうとは
しなかった

いや
できなかった

己の作った兵器が
やがて人を殺し
その災禍がアインにも
降り注ぐ可能性が
あると思うと

胸は震え
指は動かなくなり
泉のように
湧き出していた
発想は止まった

王国はそれを
反乱の意志だと考えた
アインの出身が
国境に近かったことも
災いしていた

敵国フィグリアに
与するのではない
疑われたのだ

巻き込んで
しまって
ごめんなさいね
アイン

謝られる
ようなことは
何一つ無い

あなたまで
死ぬことはないわ
私は今まで
間接的にとはいえ
何人もの人を
殺してきたの

その報いを
受けなければいけない
…でもあなたは
そうじゃない

俺はラズの
弟子だ
ラズが悪だと
いうなら

俺は喜んで
邪悪な魔術師を
名乗るさ

逃げよう
ラズ！

逃げて
どこか遠い国で
二人で暮らそう

逃げきれない

それは無理よ
完全に囲まれてる

…わかった

俺が
死ねばいい

ラズが内通を
疑われたのは
俺のせいだ

ごめんなさい

アイン

この命は
ラズに救って
もらったもの

ラズのために
捨てられるなら
悔いはない！

…『アイン・ソフ・オウル』

師としてあなたに命じます

私の首を刎ねそれを持って兵に投降しなさい

な…！

…

アアア

アアアア

どういうことだ!?

なんで…こんな…！

ラズ…

やめてくれ！

俺は…あんたを殺してまで生きていたくなんかない！

アイン…

ごめんなさい

やめ……

ソアラ・ウィン・ウルフ・オウル!!

起きなさい!!

ラズ……!?

Step.43 End

Step.44

今
リルに平手打ち
された…？

いや…それより

俺は真名で
叩き起こされた…

ニコ

それができる人間は
もういないはず……

オウルが
しっかり
してないから

スピナが心配して
暴走しちゃった
じゃない！

あなたは
わたしたちの
ご主人様
なんだから

もっと余裕を持って
いつもみたいに
不敵に構えてなさい！

……

取り戻すん
でしょう？

!?

ユニスを

…

ああ…

よろしい！

ん！

…お前は…

ラズ…

…なのか？

……

…オウル
力むと魔力を
使いすぎる癖

ぜんっぜん
直ってないね

悪魔の召喚
ってさ 釣りに
似てるんだよね

…

魔界から見ると
呼ばれてる種族と
使われてる魔力が
見えるわけ

悪魔たちはそれを見て
この魔術師は
期待できるか
品定めするんだけど

?

?

オウルってば
サキュバス呼ぶのに
高位悪魔並みの
魔力を注ぎ
込んだりするから

ゴゴゴ

皆逆に警戒
しちゃって
全然食いつか
なかったんだよね

ゴゴゴ

!?

でも

わたしにはあなたの
琥珀色の魔力が
なんだかすごく
懐かしく思えたんだ

自分の魔力を
全部吸われて
オウルの魔力で
身体を作り直して
思い出した

弟子を裏切り
悪魔に魂を捧げた
ラディクス・
フルーメンは

魔界で悪魔に…
サキュバスに
なった

わたしは
ラズじゃない

でもね
それでも

ラズの記憶は
大半思い出したけど

私は私

あなたの使い魔の
リルシャーナだよ

…

そうか

まあラズは聡明で
落ち着きのある
大人びた女性
だったからな

お前とは
似ても似つかん

む

失礼な！

ああ見えて
結構背伸びして
たんだからね
あの女！

弟子の前で
良い格好
してたけど
内心は滅茶苦茶
オロオロ
してたよ

キャー

おいやめろ
俺の
穢す
な

お師匠様…

帰るぞ
リル スピナ

はーい

…はい

そふぃー…!?

そふぃー

月月

…？

ほんとうにそふぃー…？

まえよりおっぱいおっきくなってる

？

……

い一体何を
言っているのですか
私は何も変わって
など

うそだー
まえよりぜったい
おっきくなってる！

…つまり
スライム化
したのを
利用して…
ということか

あーまあ
スタイル
くらい
自由自在
だよね

ゴゴゴ

あっ
ほんとの
そふいだっ

…な なら
しばらく
会わないうちに
大きくなった
のでしょう

何も
不思議な
ことは…

そんなわけ
ないもん
いちねん
ずーっと
かわらな
かったもん

いまさら
かわるわけ
ないもん

あなたはっ！
何度っ！
私を辱めれば
気が済むのです

マリイイイ
イッ!!

ドバアア

キャーッ

オウル

ラズはさ
最後まで

幸せだったよ

…

そうか

…
してやる

え？

お前も
だ

…うん！

まあ
それは
それとして
だ

?

お前が俺の頬を
引っ叩(ぱた)けたのは
どういうことだ？

ギギギ

そんな
論理が
通じるか！

えーと
それはほら
害を与える目的じゃ
ないからノーカン
っていうか…

貴様 契約の
一部が無効化
されているな!?

ふーむ

身体の組成自体を
全て入れ替えた影響か
人間であった頃の
記憶を呼び覚ました
結果か…？

まさかそのような
回避方法が
あったとはな

どうやら
縛る契約は
だいぶ緩んで
いるようだ

契約事項を
全部
洗い直すぞ

どのくらい
緩んでいるのか
確かめ 呪いを
かけなおす

ちょっ
ま 待ってよ
オウル！

わたしはオウルを
裏切ったり
しないってば！
他の悪魔とは
違うの 信じてよ

ああ
信じて
いるとも

ぱぁぁぁ

!?

がそれと
これとは
話が別だ

俺が信じていようが
そんなもの
世界は簡単に
裏切るからな

今から契約事項を
書いていくから
お前はそれを
確認しろ

お前の信頼と
同様になんの
保証にもならん

一体何項目
やる気よ…

大体千くらいだ
多いんだから
さっさと片付けるぞ

スー

ゼロ…!?

前世の記憶が
戻ったのって
多分オウルの
魔力のせいだね

どういうことだ？

ほら オウルって
わたしの身体を
魔力で弄(いじ)ったり
したじゃない？

ああ

それに わたしは
オウルの魔力を
そのまま
使ってるの

あの時スピナに
吸収されて
わたしは頭以外を
オウルの魔力で
作り直した

なるほど
俺の記憶が
お前に作用したと
いうことか

…つまり
わたしの魔力は今
完全にオウルと同じ
琥珀色なのよ

多分ね

興味深い現象だが
ほとんど同じ色の
魔力を持った者が
出会うことは
滅多にない

試すことは
できんな

そうね
良いことだとも
限らないしね

わたしは
ラディクス
じゃない

でもう
リルシャーナ
でもないかも
しれない…

少なくともオウルに
召喚される前の
わたしとは何もかも
違っちゃった

この身体だって
作り直されたもの…
僅かとはいえ魔力の色
まで変わっちゃったん
だから

……

ううん

後悔して
いるのか？

わたし ほら
サキュバスだから
そもそもそんなの
ないんだけどさ

？

この身体では
初めてだから…

わかった

…

あちょっと
待って

呼んだら
来て！

おおい

準備
するから！

!?

準備…？

おそい

……

まさか
仕事をさぼる
口実では
あるまいな…

ごめん
もう大丈夫だよ
わたしの
部屋に来て

やれやれ

カツ
カツ

…

どう…かな

悪くない

あ…

ドキ

ドキ

ビク

は…

ん…

コリ　コリ

あん…
だめ…

ビク

何が
駄目なものか

ワキュ　ワキュ

あぁん

ビク　ビク

んああ

全くいい声で
鳴いてくれる

ふあ…

ビク

いくぞ…

うん…っ

ズン

お前…

わからない？

えへへ
自分でも身体の
中身を書き換え
られるように
なったから

なんだって
そんなことを…

うん
こめんね

…愚か者
そうなら
そうと言え

ん…

なぁ…

すごい
オウルの…
いつもより
大きい…

淫魔
らしく
ないな

んっ

そうね

お前が
小さいのだ
愚か者

わたしオウルに
撫でられるの
好きかも

わたしの中…
いっぱい
出して…

ビクッ

ああああああっ!!

ビュッ

なら望み通り
…出して
やる…！

ビュッ

大丈夫か？

はあ

はあ

ビクッ

うん…
ご主人様の精液
美味しすぎて

……!?

お前大きく
なってないか？

うん ご主人様の
精液でどんどん
作り替えられるの

イっちゃった……

もっと頂戴(ちょうだい)…

そしたら

オウルを愛してる…
わたしを全部
ご主人様の
色に染めて？

わたし

もっともっと
ご主人様好みの
女になれる

この魅了は…
今までで一番…

腰が
抜けるまで
やってやる

強烈だ…

あっ

はあぁあ…っ

あっ

いく…そっ

ピチャ

ピチャ

ピチャ

…あれ？

元に戻ってる？

俺好みの
女になると
言っただろう？

そっか…

…

でも…
わたしだけじゃ
足りないんだよね

…まあ
そうだな

…ああ

頼りに
している

助けようね…絶対
わたしも頑張るから

Step.44 End

ゴオン

ゴオン

ゴオン

ゴオン

Step.45

…

ここにいたの

全員揃ったわよ

…

宗教国家
ラファニス

その首都の更に
中央に王宮の
代わりに
建っているのが

大陸中の教会を
統括する
僧侶たちの大本山
メリザンド大神殿だ

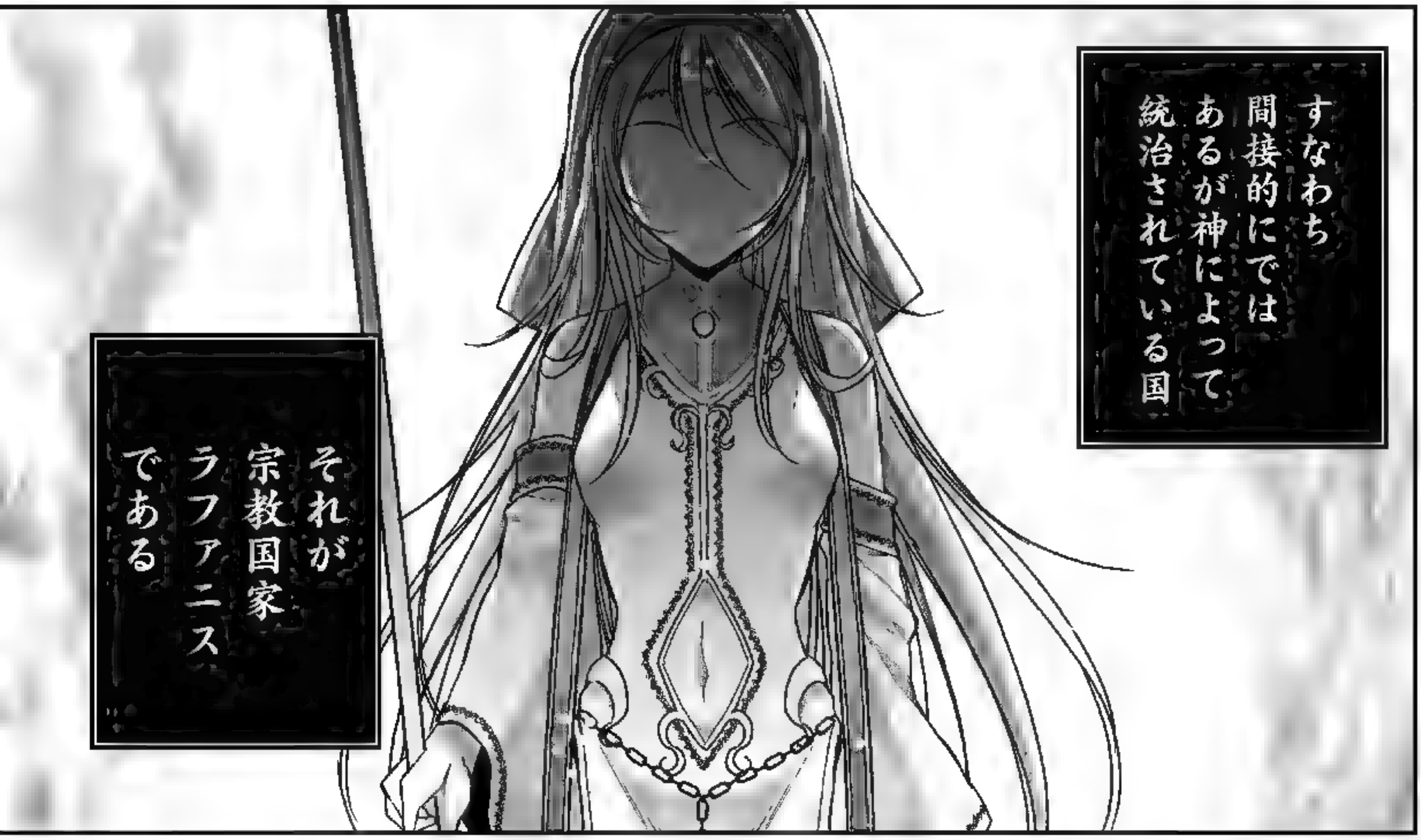
聖女メリアは
その神殿の奥で
毎日豊穣と
平和の祈りを捧げ
表に出ることは
滅多にない

代わりに政治を
担当しているのは
「評議会」と
呼ばれる集団で

実権としての
トップは存在せず
常に評議会の
多数決によって
政策の可否が
決められる

評議会の人事を
決定する権利を
持っているのは
聖女のみであり

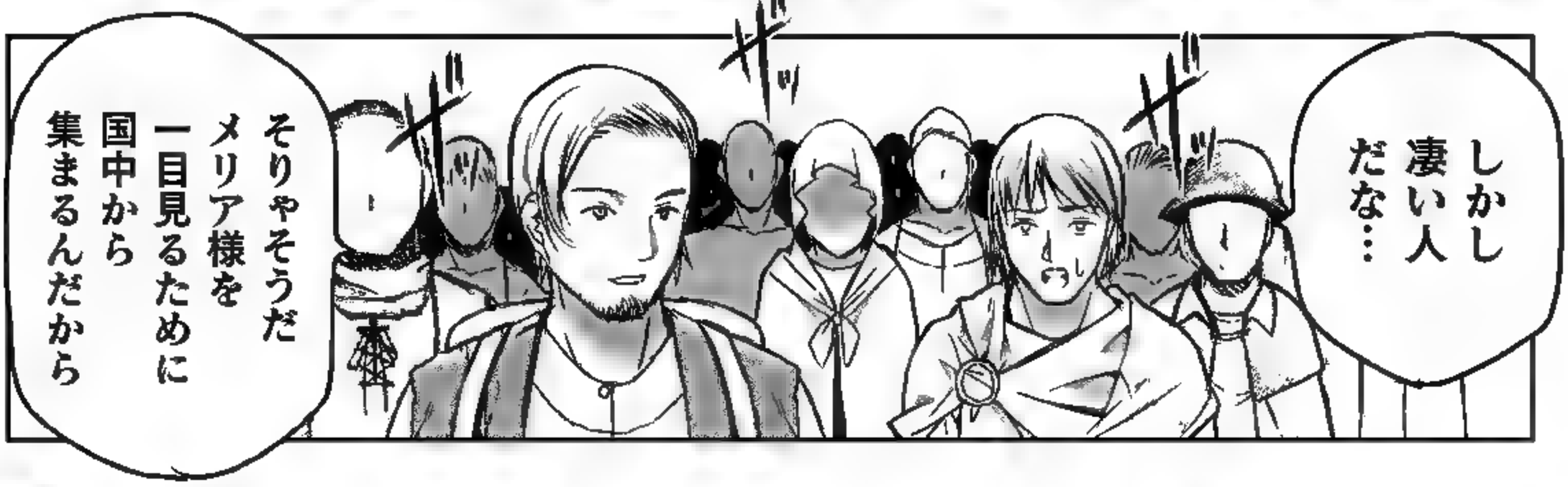
その決定は
神託によって
もたらされる



統治すなわち
間接的にでは
あるが神によって
統治されている国

それが
宗教国家
ラファニス
である

ガラ ガラ


しかし
凄い人
だな…
そりゃそうだ
メリア様を
一目見るために
国中から
集まるんだから

豊穣の儀式の
ために

四中にその名を知られ慕われている聖女メリアではあったが

表舞台に上がることは滅多にない

これは他国の侵攻や君主の廿四があった場合ですら同様でいずれも評議会の人員が聖女の代理となる

人事異動や代替わりがいつ起こるのかは不定でありまた神殿内で執り行われるので一般の目に触れることもない

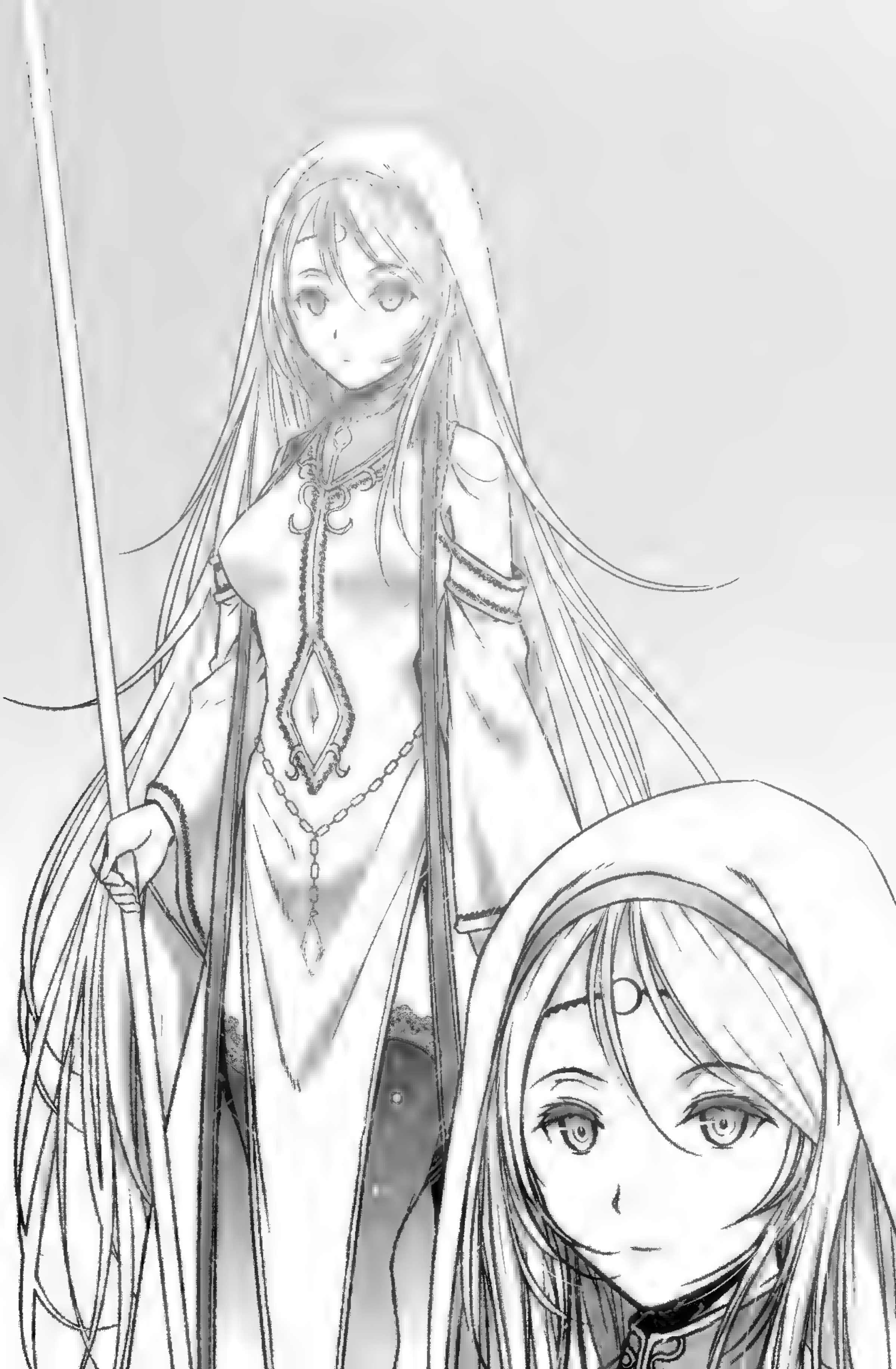
唯一日程が決まっており一般市民たちも聖女の姿を目にできるのが毎年初春に行われる――

「豊穣の儀式」だ

聖女様

メリア様

メリアさまああ



聖女は神衣をまとい
神殿の前にある
祭壇の上で
豊穣の舞いを踊る

メリア様
キレイだ…

それはただの
儀式的なもの
ではなく
神の力である
『理力（りりょく）』を
帯びたものだ

素敵…

この儀式によって
ラファニスは
実際に豊穣の
祝福を受け常に
豊作に恵まれる

人々はその加護を
受け田畑を耕し
富を築いて
それを聖女に
ひいては国へと返す

ラファニスが
大陸でも有数の
大国になった
秘訣だ

聖女は
神官の中から
神託によって
選ばれる

そして
その神官の中から
聖女に選ばれるのは
たったひとりだ

世界に数多ある教会
さらに無数にいる
僧侶それらの中で
神官になれるのは
ほんの一握り

聖女に選ばれるのは
常に若い少女の中でも
才能に優れ
見目麗しい者だった

そしておよそ
30歳ほどになると
次の聖女を選び
その任期を終える

例外なく美しい
聖女たちの中でも
今期のメリアは
特に美しいと
誉れ高い

齢は今年で24
花の妖精も
女神すらも
彼女の前では
霞むと形容される

メリア様
お美しい…

アールヴの
姫君のよう

ほんと…

な…なに？

この音…

ゴロ…

な…なんだ

ゴロ…

ゴロ…

NO

ゴゴゴゴゴゴ

何が起きたの？

な…！

ゴゴゴゴゴゴ

誰か風を起こせ！
この砂塵(すなぼこり)を
消し飛ばすんだ！

くそっ
聖女様は
無事か!?

!?

聖女様ー！

無事かー！

これは…

ゴゴゴゴゴゴ

き…巨大な穴が
開いている！

聖女様ー！

どこですかー！

追うぞ！

縄を持ってこい
不用意に近付くと
落ちるぞ！

…これは！

…！

て…天井が

崩れて横穴が
ふさがれている…？

……

……

どうやら
上手く
いったようだな

……で

何をしておる
貴様らは

んー
英気を
養ってる？

それと領地の
確保でしょうか

なんも
してない
です！

……お前たちには
お前たちで仕事が
あるはずだが？

大丈夫です
スライムで分身を
作れますので

わたしも
ほら 魔力で

ぷるるん

……

それにしても
いつの間に
ラファニスまでの
坑道なんて
掘ってたの？

ここから
首都まで
馬車でも一週間
かかる距離だよ？

大体コボルトが
迷宮に巣を
構え始めた
頃からだな

滅茶苦茶前じゃん！
うちにエレンが
きた頃だから…
ええ！
もう一年以上前!?

そんな頃から
ラファニス
攻める気満々
だったんだ

だから言っただろう
いずれは攻める
つもりであったと

時間も
そうですが
精度の方が
私には信じ
られません

コボルトならば
ピッタリと祭壇の
真下まで穴を
掘れるもの
なのですか？

コボルトは確かに
坑道内でも
絶対的な距離感と
方向感覚を保てる

が地上に
何があるか
窺うことまでは
できん

しかし地上での
距離がちゃんと
把握できていれば

それにあわせて
寸分違わず
坑道を掘ること
など朝飯前だ

そんな精度を
持った地図
なんてあるの？

ガッ
ガッ

あるぞ
龍脈を探るのに
精密な地図が
必要だったからな

地図技師に
測量方法を習い
龍脈を探りながら
地図を作った
足掛け25年がかりの
大作だ

自作!?

おそらく俺以上に
精密な地図を
持つものは
おらんだろうな

今はフィグリアの
周囲から各国の
首都までしかないが

いずれは大陸全土の
地図を作りたいものだ

ZZZZ…

…いつから
こんな子に…

…いや
昔からなのか

!?

届いた
ようだな

ずるっ

!?

では聖女の
顔を拝みに
いくとするか

むきゅう

……

Step.45 End

聖女メリアよ
遠いところ
足労頂いたな

お初にお目にかかる
我が名はオウル
世に魔王と
呼ばれている者だ

Step.46

……

私をどうしようというのですか？

…

流石は聖女だな

肝が据わっておる

要求は単純だ

法術のことを教えてもらいたい

法術とは
魔術と似ては
いるものの

源流も体系も
異にする
技術の二つだ

一般にも広く
知られている
魔術とは異なり

聖女のみが
それを語り継ぎ
習得している

魔力とは異なり
『理力』と呼ばれる
力を糧として
扱うといわれている

豊穣の儀式で
使われている祈りや
国全体を包む結界は
この法術によるものだ

オウルにも
それが魔術ではない
ことは理解できたが

具体的にどのような
ものなのか
どう使用する
ものなのかは
推し量ることが
できなかった

できません

まあ
予想通りの
反応か

手荒な方法で
招きはしたが

法術について
教えてもらえれば
無事に国へと
送り返し

正直に
言おう

こちらは
ラファニスと
敵対する
気はない

二度と手は
出さぬと誓おう
無論 法術を
悪用するような
こともせぬ

…失った
大切なものを
取り戻したい

ただ
それだけ
なのだ

できません

……

…であれば
仕方がない

ラファニスへと
攻め込み
奪い尽くすしか
手がなくなる

自国が負ける
わけはないと
思っているの
かもしれないが

こちらとて
それだけの
準備はある

何より勝とうが
負けようが
必ず少なからぬ
犠牲は出る

それを未然に
防ごうとは
思わないのか？

それでも
法術を教える
ことはできません

取りつく
島もないか

表情は全く変わらず
肌に汗もかいていない
視線も泳がず
声の震えも指先を
動かすようなこともない

恐怖や動揺を
押し隠しているなら
とんでもない
演技力の持ち主だ
感じていないなら
その胆力は並大抵の
ものではない

彼女を支えている
ものはなんだ…？
人は誰しも
なんらかの支えを
持たなければ
真っ直ぐ立つことは
できない

愛国心…正義感か？
自分が聖女で
あることの自負…
あるいは神への
信仰なのか？

そういったものにすがっているにしてもメリアには揺らぎがないなさすぎる

人知を超えた…それこそ神のような鋼の精神を持っているとでもいうのか？

馬鹿馬鹿しい…人は人である限りその心のあり方を変えることなどできない

ならばその決断を後悔してもらおう

ガイッ

…スピナ

ここに

スーッ

…

媚薬入りの
スライムだ

安心しろ
溶かすのは
服だけだ

ぐにゃ

ぐにゃ

…

ドポポ

ん…

当たり前だが
薬の類は
効くらしいな

スポ

入れるぞ
覚悟はいいか？

ジュアア

…どうぞ

見よ
お前の純潔が
失われた証左だ
そう…
ですね
その余裕が
いつまで続くか
見ものだな
ん…は…

ん…は…

ぬちゃ

ぬちゃ

ぬちゃ

はあ

聖女ともあろう者が
男を咥えこんで
よだれを垂らして…
はしたないとは
思わないのか？

あ…ひ…

言葉への
反応がないとは
やりにくいこと
この上ない

ぐじゃ

ぐじゃ

ドオッ

いくぞ
メリア…ッ！

ドゴォ

ドゴォ

ヒヴン

ガッ

ヒヴン

ガッ

ガッ

ヒヴン

ヒヴン

ガッ

ズッ

メリア
ここから先は
絶頂に至る
ことを禁じる

ガッ

ズッ

ズッ

ズ

……!!

どれほど快楽を
得ようと
俺の許しがなければ
お前は気をやる
ことはできぬ

!?

無限の快楽を
とくと
味わうがいい

……

どうした
この程度で
声をあげていては
喉がつぶれるぞ

あああああっ！

ぬぬぬぬ
ぬ

ズチュ
ズチュ

ああっ
はぁぁ…
も…っとぉ…

イカせて
欲しいか？

ならば
教えろ

貴様の
知っている
全てを

ああ
あああ…

わたし
わたし
はぁあ…

な

ブル

聖女

ブル

じゃ

…!?

脈が…ない…！

この魂は…

人間の魂というのは
生きていくうちに必ず
汚れ濁っていく
聖女ならば
常人よりも澄んでいて
不思議はないが
限度というものがある

ほう…こりゃ
出来の良い
紛い物だな

一切の穢れが
ない…！

やはり
そうなのか

おうよ
この口ーガン様が
人間の魂を
見間違うわけ
ねえだろ

たとえ作り物でも
それが生まれた
ばかりの幼女の魂
となりゃあ
なおさらよ

……

魂の穢れとは
すなわち欲望
それすらなく
何も望まず
何も欲さぬとすれば
それはただの
装置にすぎない

メリアはまさしく
『聖女』という名の
装置だった…
だが人造人間（ホムンクルス）や
魔法生物（ゴーレム）を作るのと
とはわけが違う

それらに知能を
持たせることは
できても
魂は持てないのだ
魂そのものを
作ることは
魔術では不可能と
されている

……一筋縄
ではいかぬ
ということか

敵はメリア
より上にいる
そして…
その相手は
おそらく俺と
よく似ている

――ラファニスで
新しい『聖女』が
発表されたのは
それから三日後の
ことだった

『影の聖女』
『裏聖女』
『真の聖女』
ううん
どうにも悪役
といった趣(おもむき)が
ぬぐえないな
どう思う？

…『大聖女』で
いいんじゃ
ないですかね

ふうむ
…まあ
しかしだ
この態(なり)で「大聖女」を
名乗るというのも
どうかな？

ギャップがあるって
いうのもそれは
それでいいんじゃ
ないですか

ギャップか
…うむ

では大聖女
メリザンドと
名乗るとしようか

Step.46 End

…楽しそうですね

馬鹿を言うな 我が国 数百年ぶりの危機だぞ

楽しんでなどいられるか

Step.47

魔王オウルよもやこんなにも早く攻め込んでくるとはな

それも地下からの奇襲とは恐れ入った

あの坑道を辿ってぶっ殺してきたら早いんじゃないですか

なんなら俺いってきますよ

騙(おご)るな『不死身』

お前は不死だが無敵ではない

舐めてかかると手痛い反撃を食らうぞ

相手はかのウォルフ王を下した相手だ

んじゃあ何人か呼びます？

ああ

!?

既に呼んだ

なっ…
六人!?

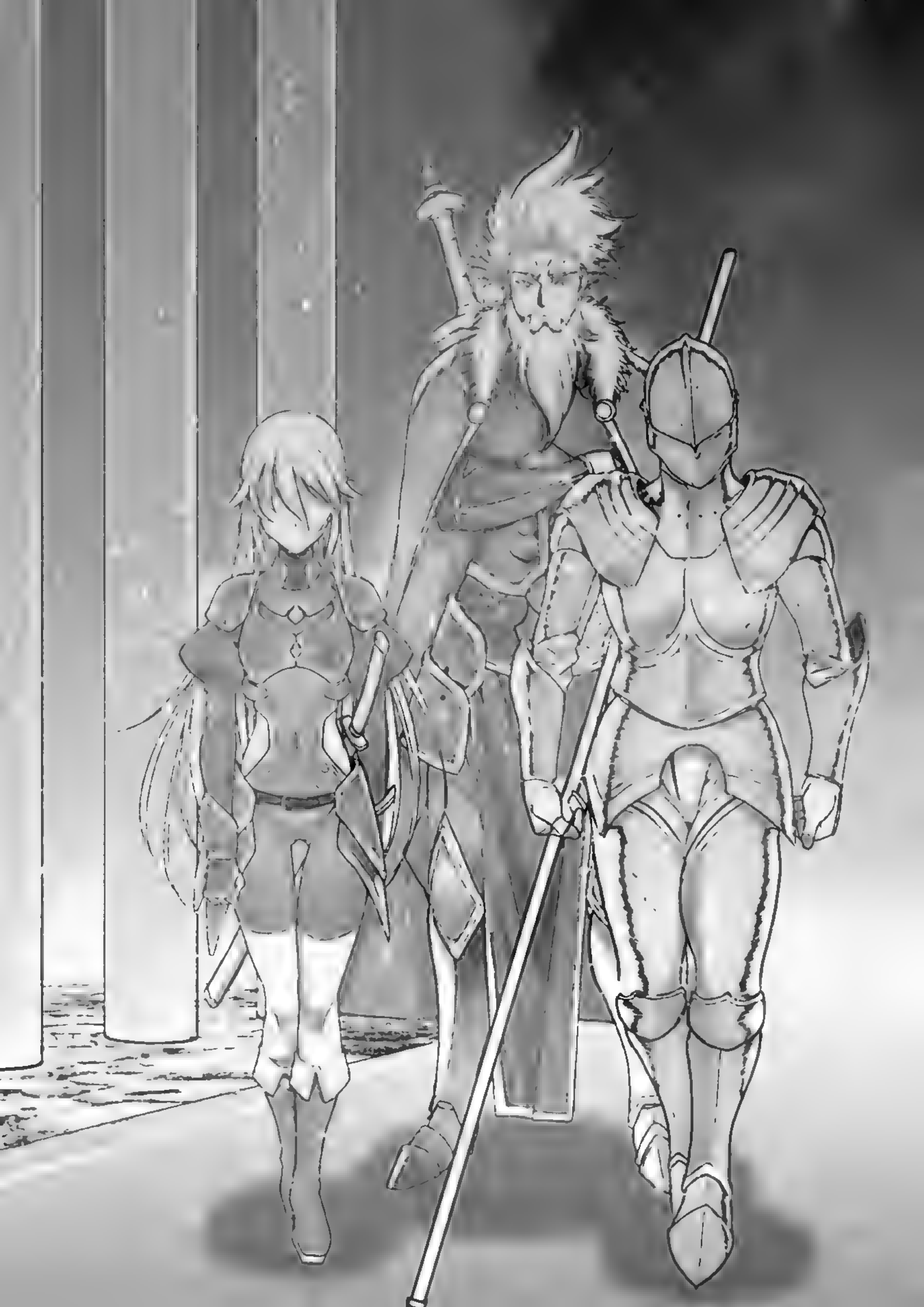
全力で
いくんですか!?

今言っただろう
魔王は侮れる
相手ではない

聖女も一人
やられたのだぞ

…全力を
もって

叩き潰す



『跳ね駒』

『魔弾の射手』

『鉛の英雄』

『竜殺し』

『無明の騎士』

『炎髪の姫』

そして
『不死身』

…以上
英霊七名
全員をもって

魔王を
討伐する

新入りが
三人か

よろしく
頼むよ

…

…

…

そんで
どうするんです？

一気に七人で
攻め込み
ますか？

一騎当千
どころか
万の敵も
相手にできる
元英雄たちだ

7人もいれば
その戦力は
師団どころか
一つの軍に
匹敵する
しかし

まずは
彼我(ひが)の
戦力を
分析する

敵は魔王オウルと
その配下の魔物たち

そしてその
属国の兵士たちだ

兵力は
フィグリアの
兵がおよそ1万

グランディエラの
兵がおよそ15万

ラーヴァナが
5千

アルフハイム
3千

他の有象無象を
あわせて2万
といったところか

とはいえ
当然これらの兵を
一度に全部
動かせる
わけではない

まあ攻勢に
動かせるのは
よくて半分
だろうな

またほとんどは
魔王に攻め入られ
力で属国に
なった立場だ

錬度はともかく
その士気は
けして高くはない

はあ

それだけなら
英霊を呼ぶ
までもなく

我が聖騎士団で
幾らでも
対処できる

が

問題は
配下の
魔物たちだな

これはどのような
種類が何匹いるか
予測できん

また聖女を攫った
時のような坑道を
通って進軍されるのも
非常に困る

地下には
結界を
張れんからな

あー…そりや
マズイですね

そして
もっとも
厄介なのが

魔王
オウルだ

慎重で狡猾

目的の為には
手段を選ばぬ

…どこかで
聞いたことがある
フレーズですね

そうだな
私もそう思うよ

かの者は私に
よく似ている

なるほど
そんじゃあ
本気で
やらないと
ヤバいですね

褒め言葉と
受け取って
おこう

厄介なのは奴が
常に形代(かたしろ)を使い
本体は表に姿を
現さぬということだ

おそらく本体は
迷宮奥深くに
潜んでいるので
あろうが

この迷宮
というのが
また曲者でな

攻めるに難く
守るに易いの
究極形の
ようなものだ

山に囲まれてる
どころか
壁に囲まれて
ますもんねえ

…

？

…今お前
自分ひとりでなら
十分攻略できるな
と思っただろう

あ
バレました？

でも実際
そうじゃ
ないですか？

お前の『不死身』は
その二つ名の
示すとおり
文字通りほぼ
『不死身』だ

首を刎ねようが
すり潰されようが
死ぬことはない…
が…だ

這い上がれぬほど
深い落とし穴

何もかも
溶かすスライム

土の中深くや
溶岩地帯に
転移する罠

身動きを完全に
封じる強力な呪い
精神に影響する
類(たぐい)の魔術

私が今ざっと
考えただけでも
お前を無力化できる
方法はこのくらいは
あるか？

だぁれかぁぁぁ
おーい
うわあああ
トーぐじゃ
ナーぐじゃ
…
!?
ブォン

すんません
調子乗って
ましたー！

お前は不死身では
あるが無敵ではない
しばしばそれを忘れる
のが欠点だと 日頃から
言ってるだろう

おそらく
そのいくつかは
迷宮内に実際に
仕掛けられて
いるだろう

英霊といえど
易々と突破
できるとは
限らん

もし英霊を
失えば

軍対軍で
正面突破される
可能性もある

それは…

敵の全勢力が
未知数で
ある限りは
予断を許さん

常に最悪の
事態を想定して
行動する
必要がある

しかし迷宮を
単身で攻略
するのもダメ

かといって相手の
進軍を待ってたら
直接神殿に攻め
込まれる可能性が
あるからダメ

となると
どうするんで？

こっちから
軍を出して
攻め込みます？

それも
悪くはないが
もう少し
いい手がある

…

全力で挑むなど
愚の骨頂だ

敵の力は
未知数

だからこそ
こちらから先に
手の内を晒すこと
などできん

こちらの利点は
このダンジョンの
防衛能力と
その中にいる
魔物たちだ

初手から全力で
攻めるのは
その利点を
全て潰すような
ものだな

そう
戦力を出し惜しんで
勝てる相手じゃ
ないんじゃないの？

そもそも正面から
勝つ必要などない
攻めてきた時に
負けなければ
それでいい

要は相手の
『核（コア）』を取れば
よいだけだ

しかしその
『核』はどこに
あるのでしょうか

…そんな
わかりやすい
場所に置くで
しょうか？

…では聞くが
移動させることが
可能だとして

ダンジョンコアを
迷宮外のどこか
辺鄙（へんぴ）なところに
置こうという
気になるか？

……

…いえ

いや十中八九
『核』があるのは
メリザンド
大神殿だ

確かに別の場所に置けば不意はつけるかもしれん

が

万が一ばれた時はどうする？

そんな場所では守りきれん

かといって普段から十分な防備を置けばあっという間に発覚する

だったら最大限守りやすい場所に置くのが当然だ

そもそも『核』の存在自体が秘匿されているのだしな

だから問題は敵の兵力ではなく戦力

英霊と天使をどの程度まで扱えるのかという話だ

天使や英霊…私が食べることはできないでしょうか？

いや無理だろうなあれは魔力ではなくて理力でできている

魔力は理（ことわり）を捻じ曲げ世界を改変する力

理力はその正反対理を促し世界を形作る力

当たり前のことを当たり前にする力…だと言われているな

じゃろり

理力って結局なんなのですか？…

俺も法術を使えるわけではないから

漠然とした答えしか返せぬがな

たとえば物が地面に落ちるように

子が成長し大人になり

やがて老い死ぬように

魔術はそういった理を捻じ曲げ物を宙に浮かせ老人を若返らせる

魔力の多くが地中に存在するように

理力の多くは空中…空に存在するとは言われてはいるが実際のところはよくわからん

空ねえ…じゃあ太陽が動くのも法術のせいってこと？

そこまで大規模な法術は人の扱う範疇(はんちゅう)ではないだろう…が太陽は昔から神の力の象徴として見られることが多い

「理力が空に満ちる」と言われるのもそのせいかもしれんな

…いずれにせよ
天使は悪魔と
似たような
ものだから
ともかくとして

厄介なのは
やはり
『英霊』だ

『英雄』とは
『英霊』になる為に
生まれた存在だ

悪魔が人間と
契約を行い
魂を集めて
戦力を増やすのと
同様に

天使たちは人間を
『英雄』として祭り上げ
生きているうちに
その魂を磨かせて

死後その魂を
『英霊』として
天に召し上げる

悪魔たちは
質より量を選び
天使たちは
量より質を選んだ

細かい差はあれど
どちらも人間を
食い物にしている
ことには変わりない

ユニスと
同等以上の
戦力かあ…

一度に何人の
英霊を使役
できるかは
わからんが

…五人以上
いるなら
負けるだろうな

準備は
いいか？

うん
オッケー

この身滅ぶまで
どこまでも
お師匠様に
ついてまいります

では
皆のもの

心して
かかれ！

敵は喜びと
平穏に満ち

幸福と愛情の
歌をうたう

鼻持ちならない
天の遣(つか)いどもだ

奪い
穢(けが)し

踏み躙(にじ)れ！

奴らの
家のドアに
その臓物を
飾り立て

首を晒して
火をかけて
やるのだ！

00
/
/
00
/

さあどうでる…

聖女

魔王

魔王の始め方

HOW TO BUCK ON THE DEVIL

ヴァルキリーコミックス

魔王の始め方 6
THE COMIC
【電子書籍版】

著　者
小宮利公

原　作
笑うヤカン

キャラクター原案
新堂アラタ

装　丁
マイクロハウス

発　行
株式会社キルタイムコミュニケーション
〒104-0041　東京都中央区新富 1-3-7 ヨドコウビル１Ｆ
●編集部 TEL.03-3551-6147／FAX.03-3551-6146
●販売部 TEL.03-3555-3431／FAX.03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©Toshimasa Komiya　©Warau Yakan　2019

当ファイルは、ヴァルキリーコミックス『魔王の始め方 THE COMIC 6』
（2019 年 12 月 24 日　初版発行）に基づいて作成しております。

http://ktcom.jp/

※この物語はフィクションであり、実在の人物・団体とは一切関係ありません。

本作品のご意見、ご感想をお待ちしております

本作品のご意見、ご感想、読んでみたいお話、ジャンルなど
どしどしお書きください！　読者の皆様の声を参考にさせていただきたいと思います。
手紙・ハガキの場合は裏面に作品タイトルを明記の上、お寄せください。

◎アンケートフォーム◎ **http://ktcom.jp/goiken/**

◎手紙・ハガキの宛先◎
〒104-0041 東京都中央区新富 1-3-7 ヨドコウビル
(株)キルタイムコミュニケーション　ヴァルキリーコミックス感想係

魔王オウルへ反旗を翻した魔女スピナ。
彼女の歪んだ愛情に囚われた主を救うため、
サキュバス・リルが立ち上がる！
戦いの中でよみがえるオウルの記憶。
そして、魔王の次の狙いは宗教国家ラファニス。
聖女を捕らえ計画は順調…と思いきや、
魔王の前に立ちはだかる者が!?

HOW TO BOOK ON THE DEVIL THE COMIC 6

comicwork by komiya toshimasa - story work by warau yakan